萬葉集略解 九

太政官文庫
和書門
類 七六一三
號 三七九二
函 二
架 三
冊

内閣文庫
和書
類 七六一三
號 三二
冊 一
函 〇〇二
架 七

内閣文庫
番號 和 7613
冊數 32 (13)
函號 200 139

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

神宮文庫

萬葉集卷第九

雜歌

泊瀬朝倉宮御宇天皇御製歌一首○岡本宮御宇天皇
幸紀伊國時歌二首今本首の字を脱す○大寶元年辛丑冬十月幸
紀伊國時歌十三首本文2月の下太上天皇大行天皇の八字あり
○獻忍壁皇子歌一首詠仙人形○獻舍人皇子歌二首
○泉河邊間人宿禰作歌二首○鷺坂作歌二首○名木
河作歌二首○高島作歌二首○紀伊國作歌二首○鷺
坂作歌一首○泉河作歌一首○名木河作歌三首○宇
治河作歌二首○獻弓削皇子歌三首○獻舍人皇子歌
二首○舍人皇子御歌一首○鷺坂作歌一首今脱島二字を誤○泉
河邊作歌三首○獻弓削皇子歌一首○柿本朝臣人麻

後人歌二首今三首とあるを誤る
鷺坂作歌二首
獻舍人皇子歌二首
獻弓削皇子歌三首
泉河邊作歌三首
獻弓削皇子歌一首
宮内省圖書寮文庫

呂歌集謌二首○登筑波山詠月一首（月の下歌の字を脱せり）○幸芳野離宮時歌二首○槻本歌一首○山上歌一首○春日歌一首○高市歌一首○春日藏歌一首○元仁歌一首○絹歌一首○島足歌一首○麻呂歌一首○册比真人歌一首　和歌一首○石川卿歌一首○宇合卿歌三首○碁師歌二首○小辨歌一首○伊保麻呂歌一首○式部大倭歌一首○兵部川原歌一首○詠上総未珠名娘子一首并短歌○詠水江浦島子一首并短歌○見河内大橋獨去娘子歌一首并短歌○見武藏小崎沼鴨作歌一首○那賀郡曝井歌一首○手綱濱歌一首○春三月諸卿大夫等下難波時歌二首并短歌○難波經宿明日還来時歌一首并短歌○檢税使大伴卿登筑波山時歌一首并短歌○詠霍公鳥謌一首○登筑波山歌一首并短歌○登筑波嶺為嬢歌會日作歌一首并短歌○詠鳴鹿歌一首并短歌○沙彌女王歌一首○七夕歌一首并短歌

相聞

振田向宿禰退筑紫國時歌一首○板氣大首任筑紫時娶豐前國娘子紐兒作歌三首（々但し紐を紐子に誤る）○大神大夫任長門守時集三輪河邊宴歌二首○大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首○獻弓削皇子歌一首○獻舍人皇子歌二首○石河大夫遷任上京時播磨娘子贈歌二首○藤井連遷任上京時娘子贈歌一首　藤井連和歌一首○鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌○與妻歌一

首　妻和歌一首○贈入唐使歌一首
神龜五年戊辰秋八月歌一首幷短歌
天平元年己巳冬十二月歌一首幷短歌
天平五年癸酉遣唐使舶發難波入海之時親母贈子歌
一首幷短歌○思娘子作歌一首幷短歌

挽歌

宇治若郎子宮所歌一首○紀伊國作歌四首○過足柄
坂見死人作歌一首幷短歌○過葦屋處女墓時作歌一
首幷短歌○哀弟死去作歌一首幷短歌○詠勝鹿真間
娘子歌一首幷短歌○見菟原處女墓歌一首幷短歌

雜歌

泊瀬朝倉宮御宇大泊瀬幼武天皇天皇御製歌一首
暮去者小椋山爾臥鹿之今夜者不鳴寐家良霜
ゆふされば小倉の山に臥鹿の今夜は鳴かぬいねかてぬらし
考八三の白鳥鹿之しかれるまでゝ同事を載て、崗本天皇御製
哥とせるを正しとすべし、雄略の御時の哥のさまにあらざる、小
倉の山は此里なる龍田の山の彼方なれば、鹿のふれをぐらの岳をよろぐる而
なるべし
右或本云崗本天皇御製不審正指因以累載
崗本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首　考神武紀と考
ますに行幸ありしなるべし、しかれば崗本宮まで、齊明天皇
の紀の紀陽人幸せしなるべしは紀まで

為妹吾玉拾奥邊有玉縁持来奥津白浪
いもがためわれたまひろ　おきべなる　たまよせこぎよせ　おきつ　さわなみ
朝霧爾沾爾之衣不干而一哉君之山道将越
あさぎりに　ぬれにしころも　かはとらで　ひとりやきみが　やまぢこゆらん
これハ従駕のくにの名をよめるなり

右二首作者未詳

大寶元年辛丑冬十月太上天皇大行天皇幸紀伊國時
歌十三首　員部王太上天皇大行天皇の八字なり、その太上とは持統ハ
持統天皇を、倭紀大宝元年九月丁亥天皇幸紀伊国、冬十月丁未車
駕至武漏温泉、こゝとは、此集巻一大宝元年辛巳秋九月幸于紀伊
国等、このせうの御幸の道、その次第ハ載るハ既紀伊の条に
あり、その次のたるべし紀は太上天皇の代幸と載るハ既なり、この大行二字ハ今衍文也

万解九　三

既見上卷畢ヘレ

為妹我玉求於伎邊有白玉依来於岐都白浪
いもがゝわれたまもとめ　おきべなる　たまよせこぎよせ　おきつ　しらなみ
右一首上見既畢但歌辭小換年代相違因以累載
白崎者幸在待大船爾真楫繁貫又将顧
しらさきは　さきにあらまし　おほふねに　まかじしぬきて　またかへりみん
之紀伊国白崎にあり、さきにあり、ありまして、おほふねハ幸の時なり、
なほ、第一巻の、後さきうれど
三名部乃浦塩莫満鹿島在釣為海人乎見變来六
みなべのうら　しほなみしそね　かしまなる　つりせるあまを　みてかへらん
之紀伊国みなべ、かしまは、いまもあり、しを満るなかれ、海人の
朝開榜出而我者湯羅前釣為海人乎見變将来
あさびらき　こぎでゝわれは　ゆらのさき　つりせるあまを　みてかへらん

[illegible]

湯羅乃前塩乾爾祁良志白神之磯浦箕乎敢而搖動

ゆらのさき　しらひをたら　しらかみの　いそのうらみを　あへてこぎとよむ

[illegible]

黒牛方塩干乃浦乎紅玉裾須蘓延往者誰妻

くろうしがた　しほひのうらを　くれなゐの　たまもすそびき　ゆくハたがつま

黒牛がた　紀伊　下ヨ久漏牛方　とうり　後妻ハ代々の女房とも　もらん

風莫乃濵之白浪徒於斯依久流見人無

かぜなみの　はまの　しらなみ　いたづらに　よりくるみるひとなしに

風莫の浦　さぬるなり　莫ハ早の字　暴の俗字　かぜなやの岩七風早の

みちのくまとらぬ　毎のうらみ　ハ紀伊

一云於斯依来藻　これよりくるもてハてをとハ同じ　もハ藻

右一首山上臣憶良類聚歌林曰長忌寸意吉麻呂應

詔作此歌　々林の上歌の字と投せり　古本よりく補

我背兒我使将来歟跡出立之此松原乎今日香過南

わがせこが　つかひこんかと　いでたちの　この松ばらを　けふかすぎなん

妻十三首のよ　大舟のおかひしらの　出立之清き　なぎさふと　よりる出立

の八走出のとり　歟　こゝ　風を　ときてゆ　されば　一二の白ハ出　たちいでん　方

ゆく　紀伊　ふみ　松原　いつ　不　るこそ

藤白之三坂乎越跡白拷之我衣手者所沾香裳

ふじしろの　みさかをこゆと　しらたへの　わがころもでハ　ぬれにけるかも

藤白紀伊　未ハ故　と　見て　よ　るこの　又ハ　香　る　ぬ　と　こ　ゆ　ひ　ま　ね

ら　ち　ま　ぬ　れ　ハ　ぬ　れ　と　ぬ　ら　へ　る　ら　や

勢能山爾黄葉常敷神岳之山黄葉者今日散監

せのやまにはもみぢをこそかみとこのやまのもみぢハくもゐのちるらむ

常ハ路のほとりの、又ハ敷の係ると、ちるべしとなり、せの山

のもみぢのあるべきとなり、神岳のもみぢとやちるらんとなり

なり、神とこのハらみたるの神なり伯山

我ハ家ノ誤

山跡庭聞往歟大我野之竹葉苅敷廬為有跡者

やまとにはきこえゆくかおほやぬのさゝのはかりしきいほりせるとき

和名抄紀伊名草郡大屋、又大宅也、我ハ家の係といつ、さ

らバなりやとよむべし、宮本竹の上小の字とよとし、従者の人の仮

屋造りしるさるべし

木國之昔弓雄之響矢用鹿取靡坂上爾曽安留

きのくにのむかしゆみをのなりやもて、しかとりなびさかのへまでにある

万解九　五

ら雄ハ弓を射る人をさす、芳野坂まで麻を射るとなり、なるべし、なるとやハ和名

抄鳴箭、漢書音義云鳴鏑如今之鳴箭也、日本紀私記云、八目鏑夜叉女

加布良と云ものなるべし、字鏡鏑奈利加美良と云ものなるやと例、

そなとちあ、ハあまくさとなるべしとなるべし

城國爾不止将往来妻社妻依来西尼妻常言長柄

きのくにに、やまずかよはんつまのもり、つまよりこせね、つまといひしなどの

つまのもりとハ、神名帳紀伊名草郡都麻津比賣神社と云、和名抄同郡

津麻と云ことなるべし、つまとハ妻千也、やはらとあるべしとなり

ことひしなどハ都麻余之許西祢あるべしとなり、妻のもり

といふなるべし、妻と倩まさもとなるべしとなり、いひしなどハ言と云

一云孀賜爾毛孀云長柄　枝ヨ爾ハ南の係なり、つまとまさもなるも

やもめとなるべしとなり、妻と孀と別なるべし

右一首或云坂上忌寸人長作

後人歌二首　[illegible]の人の妻なるべし

朝裳吉木方往君我信土山越濫今日曽雨莫零根

あさもよききぐゆくきみがまつちやまこゆらんけふ[illegible]あめなふりそね

あさもよき紀伊へゆくきみ[illegible]ハ紀伊へ行

後居而吾戀居者白雲棚引山乎今日香越濫

おくれゐてわがこいをれば白くもの たなびく山をけふかこゆらむ

[illegible]

獻忍壁皇子歌一首　詠仙人形

常之陪爾夏冬往哉裘扇不放山住人

とこしへになつふゆゆけやかはごろもあふぎさもてるらぬやまのすまひと

[illegible]

万解九　六

略之、[illegible]

獻舍人皇子歌二首

妹手取而引與治拔手折吾刺可花開鴨

いもがてをとりてひきよぢ拔手折 [illegible]武山[illegible]

[illegible]

春山者散過去鞆三和山者未含君待勝爾

はるやまはちりすぎぬともみわやまはいまぐくみまちがてにする

[illegible]

泉河邊間人宿禰作歌二首

河瀬激乎見者玉藻鴨散亂而在此河常鴨

かのせのたぎるとみれば玉もこもちらばるこのかたぶくこのも

[illegible]

生て挿きかざるもとらん

彦星頭刺玉之孀戀亂祁良志此河瀬爾

ひこぼしのかざしのくまのつまぐしかみぐしなくこのかたのせに

[illegible]

鷺坂作歌一首　此下は山城の久世の鷺坂とよるべし

白鳥鷺坂山松影宿而往奈夜毛深往乎

しらとりのさぎかのやまのまつかげにやどりてゆのなよもふけゆくを

[illegible]

名木河作歌二首　名は紀久世郡那紀

焼干人毋在八方沾衣乎家者夜良大宗將印

あまびとはまたいをやきあまびとのたびのころもをいへはやらまし

[illegible]

やらまはやらんこの世下名木河とそのかぶ者のぬれてもとるあくこそ

のゆは一二の白此[illegible]

在衣邊著而榜尼杏人濵過者戀布在奈利

ありそへにつきてこぐあまとまをすれば[illegible]

ありてはあらんとをもうこんるつきてはまをすあまのあとを

きさけてこぎくる舟へよつきてこぐる舟とをもうこんるなり

どよあるのうはらの末河のあまのあるいで焼干のあの沾るをもうこんれ

末河のあの一そをもうこんこの世あるうそべの者はあの濵河をこぎたるは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高島作歌二首　[illegible]近江高島歌高島

高島之阿渡河波者驟鞆吾者家思宿加奈之彌

たかしまのあとかわなみはさはげとも[illegible]やどをこのもしみ

[illegible]七字句五百入のうち[illegible]かれるのうち、今回あとのせうち、宿古

[illegible]たびのあれば[illegible]宿の上旅の宿[illegible]の[illegible]

みなとやはやまもられ[illegible]

客在者三更刺而照月高島山隱惜毛

たびにしあれば[illegible]

[illegible]

紀伊國作歌二首　匣ヲ匿二誤　波下尼今氏二誤

吾戀妹相佐受玉浦丹衣片敷一鴨將寐

わがこいもあはさずたまのうらにころもかたしきひとりかもねむ

あはさずは[illegible]

玉匣開卷惜怜夜矣袖可禮而一鴨將寐

たまくしげ[illegible]

[illegible]

鷺坂作歌一首

細比禮乃鷺坂山白管自吾爾尼保波尼妹爾示

たくひれのさぎさかやまのさつつどはれるほにはねにほはにしめす

[illegible]

[illegible]

泉河作歌一首

妹門入出見河乃床太馬爾三雪遺未冬鴨

名木河作歌三首

衣手乃名木之河邊乎春雨吾立沾等家念良武可

家人使在之春雨乃與久列杼吾乎沾念者

嶽干人母在八方家人春雨須良乎開使爾為

宇治河作歌二首

巨椋乃入江響奈理射目人乃伏見何田井爾鴈渡良之

金風山吹瀬乃響苗天雲翔鴈相鴨

あきかぜのやまぢのせのとよむなるあまぐれかくるかりのあるうへ

金風八秋とも云ふ山路風八山嵐の字なり秋風ふきあるよる雁のひぐ

ひとかたの雁ゝ其うあてゝいふ空ゆく雲の雁ゝ川べ山ゆくのこの枝風

相八豆の俗ゝくがうわゝうゝ川べといふ

獻弓削皇子歌三首

佐宵中等夜者深去良斯鴈音所聞空月渡見

さよなかのことよはふけぬらしかりがねのきこゆるそらにつきわたるみゆ

初句ゝちゝ八更ゝ中八更ゝ岩十初句此ゝ八東句月立わたるとかり

ゝゝゝゝゝ金日ゝ寄ゝの

妹當茂苅音夕霧乘鳴而過去及之

いもがあゝかりのおとゆきかりがねのなくてすぎあとゝきまで

妹のあゝかり八ゝゝゝゝゝゝ

宮ゝゝ茂八衣の俗ゝゝゝゝゝゝ

いめるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

例者

雲隱鴈鳴時秋山黃葉片待時者雖過

くもがくりかりなくときハあきやまのもみぢかくまつときハすぎれど

宮ゝゝ過の上不のゝゝ

時八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

獻舍人皇子歌二首

採手折多武山霧茂鴨細川瀨波驟祁留

うちゝゝゝたむのやまきりしげかものせをはやみのさわぐる

ゝゝゝゝゝ多武山八大和十市郡ゝゝゝ細川八細川ゝ

ゝゝゝゝゝ多武山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

成盛ノ誤

冬木成春部戀而殖木實成時片待五等叙

[illegible]

舍人皇子御歌一首 天武天皇の皇子、舎人と号す、[illegible]

月庚辰朔甲申以浄廣貳授皇子舎人[illegible]

黒玉夜霧立衣手高屋於霑霧微麻天爾

[illegible]

上郡高屋安倍神社[illegible]

鷺坂作歌一首

山代久世乃鷺坂自神代春者張乍秋者散来

[illegible]

[illegible]

泉河邊作歌一首

春草馬咋山自越来奈流鴈使者宿過奈利

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

獻弓削皇子歌一首

御食向南淵山之巖者落波太列可削遺有

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右柿本朝臣人麻呂之歌集所出

吾妹兒之赤裳泥塗而殖之田乎苅將蔵倉無之濱

わぎもこのあかもひづちてうゑたをかりてをさめんくらなのはま

四の句まで八くくいそんあるの序のみ、金玉集伴るべし、ある人考るとと

[illegible]べし

百傳之八十之島廻乎榜雖来粟小島者雖見不足可聞

ももつたやそのしままをこぎくれどあけのそまはみれどあかぬかも

傳の下之の所文九、八布不[illegible]の誤るべし、粟小島八集中粟島と[illegible]

[illegible]

右二首或云柿本朝臣人麻呂作

登筑波山詠月一首　月の下歌の字を脱せり

天原雲無夕爾烏玉乃宵度月乃入巻惜毛

あまのくもなきよひにぬばたまのよわたるつきのいるまをしみる

幸芳野離宮時歌二首

瀧上乃三船山從秋津邊来鳴度者誰喚兒鳥

たきのへのみふねのやまゆあきつべきるきわたるハたれよびてとり

[illegible]

落多藝知流水之磐觸與杼賣類與杼爾月影所見

おちたぎちながるみづのいはぶつとよどめるにつきのかげをみる

[illegible]

右二首作者未詳　[illegible]

槐本歌一首　槐和名抄恵尓須

樂波之平山風之海吹者釣為海人之袂變所見

さゝなみのひらやまぢのうみかぜにたづがなくなるあまのそでかも

神の歌ゝ之

山上歌一首　忌良臣

白那彌之濱松之本乃手酬草幾世左右二箇年薄經濫

しらなみのはままつがねのたむけぐさいくよまでかとゝへぬらん

本ヲ木ニ誤

本ヲ木ニ誤ル　作ゝ二の句濱松之枝乃、事句等乃ゝ

考一ふ考くいつ

右一首或云河島皇子御作歌

春日歌一首　春日藏首老ゝ

三河之渕瀬物不落左提刺爾衣手湖干兒波無爾

万解九　十三

監ヲ鑑ニ誤

みつのゝの　ふちせも　おちず　さてさゝなみの　よるべ　なみ　なし

三河ハ地名なり　ある人近江説　ゆゑ　ゆゑ　渕瀬　物　人　なり

おちずハ岡風流　ゆゑ　ゆゑ　和名抄　天　湖　古今　渕　ゆゑ

渕の説なし

高市歌一首　黒人ゝ

足利思代搒行舟薄高島之足速之水門爾極爾監鴨

あとゝしろの　こぎゆく　ふねの　すゝきの　たかしまの　あしはやの　みなとに　きはに　かも

初句古例　あとゝしろ　ゆく　ふね　すゝき　たかしまの　あしはやの　あくがれハ誘の　ゆく　あつむる

の説後ゝ　ふね　むやゝ　ゆく　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

薄とゝ本濫ゝ

春日藏歌一首　老ゝ

照月遠雲莫隱島陰爾吾船將極留不知毛

てるつきをくもなかくしそなまのびよわのふねをてんとあわをこぐも

右一首或本云小辯作也或記姓氏無記名字或偏名號不偏姓氏

然依古記便以次載凡如此類下皆效焉　その人のこゝろをぐし

元仁歌三首　考るものなし

馬屯而打集越来今日見鶴芳野之川乎何時将顧

うまゐをあつめてうちもれてこゝきけゝみつるよりぬのゝほとをいつのつゆみも

辛苦晚去日鴨吉野川清河原乎雖見不飽君

くるしくもくれゆくひのもよりぬのそきこゝろかきくもをみれどあのをくみ

初句かくるもくるもくるもゝ君の意とこゝろ

吉野川河浪高見多寸能浦乎不視歟成嘗戀布真國

よしぬのゝかはなみたかみたのゝうらをみずてかなりなんこひしけまくふ

よしぬのゝかはなみたかみたのゝうらをみずてかなりなんこひしけまくふ

浦ハ俗言ウラ　素ヒ磯ノ

きみる河こゆゝくくハつひるとやあんぢうんふとゝ

絹歌一首　考るものなし

河蝦鳴六田乃河之川楊乃根毛居侶雖見不飽君鴨

かはづなくむつたのかはのかやぎのねもころゐるとあのぬきみかも

六田素ヒ和名抄水楊ガ波夜　奈木ヒ

つけるとさゝてあるくきてゝやぎゝあるゝいんかとやぎ

島足歌一首　考るものなし

欲見来之久毛知久吉野川音清左見二友敷

みまくほりくもちくよしぬのかはおとのさやけさみるふとりき

うくのくハ俗有、毛きハ久ヒ

麻呂歌一首　考るものなし

古之賢人之遊兼吉野川原雖見不飽鴨

いもうとのかりきひのあそびをんなのかそらみれどあのあをのも
をも一つをとこのようとうそてよせいりよせようをーあをひ、
をもてをもの但法八月日というのようくつきーとをもをもを望を

右柿本朝臣人麻呂之歌集出

丹比真人歌一首　屋をいし麻そら

今女ヨ股

難波方塩干爾出而玉藻苅海未通女等汝名告左禰
なにはがたしほひにいでてたまもかるあまをとめらなのりそなね

通のかとをも女を股せをを一をもようをを稲未八をを一のをのをを名のををねは

客ヲ客二股

和歌一首

朝入為流人跡乎見座草枕客去人爾妻者不敷
あさりをるひとをみをせをくをまくらたびゆくひとにつまは土てのを

流のか海のををと為をるを又八海を流を為れるこのあまをとみをせををを

字八俗解、敷八教のをの語をつまをハのをををををーをと八名八不告をを、
ハ海人をとのをををいをを、妻をを八名八告ーをを

石河卿歌一首

名草目而今夜者寐南役明日波戀鴨行武役此間別者
なくさあてこよひいねなんあすよりハこひのもゆるこのれなのを

遥屋をてんまハをををいるをぶるをハをを行んをを為をを

女ヨ遥てををるをををーー

宇合卿歌三首

ウマカヒ

暁之夢所見乍梶島乃石越浪乃敷豆志所念
あををきのいあををををかををーまのいをををををををのををををゆ

梶島いをををのハをを法ゆ摩をを、牧秀べ、ををを字合を西海道

節度使ををををれをををあれバをーを海をををいを、石をを法

のあくまでもつよく

山品之石田乃小野之毋蘇原見乍哉公之山道越良武

やまなのいしたのをののもそはらみつつやまぢこゆらん

神名帳山城宇治郡山科神社、久世郡石田神社と有て、山科ハ宇治郡

なれど文歌まかるとも、和名抄作 波〜曽

山科乃石田社爾布靡越者蓋吾妹爾直相鴨

やましなのいしたのもりにぬさまつりこえばけだしわぎもこにあはむかも

巻十二山代の石田のもりにぬさまつりこえば、巻十二もこの、

山科の石田の森のもりに祈りぬた取向てこゆるとも、ぬさ、布靡越者

八布麻勢者の倍まくハたりけせばもるべし

碁師歌二首　巻四碁檀越師の歌

毋山霞棚引左夜深而吾舟将泊等萬里不知毋

おもやまふかもみたちのびくさよふけくわのみねたちてんとまりもとぶも

おもしハ中出物美濃とも、奥津神代紀とかて美濃国藍見川之上喪山ともいふ、宮考云

巻七大葉山霧たちのびくのの方をと金岡ハ此歌毋の上祖の字の落るなるべく

おわぜ山くもゐの下ゆの字のなるべきも、井手ゐ〜しるの

思乍雖来来不勝而水尾崎真長乃浦乎又顧津

おもひつゝくれどきこのねてみをのさきまののうらをまゝかへりみつ

和名抄近江高島郡三尾、延喜式紀伊国、名草の酒ともいふなるべし

小辯歌一首

高島之足利湖乎榜過而塩津菅浦今香将榜

たかしまのあとりのみなとをこぎすぎてしほつすがうらいまのこぐらん

巻本書と者ま張、官本まるゝ改、塩津ハ近江浅井郡なれば菅浦も

誤ノ者二

伊保麻呂歌一首

吾疊三重乃河原之磯裏爾如是鴨跡鳴河蝦可物

わがたゝみ三重のかはらの磯裏に如是かもとなくかはづかも

[illegible]

式部大倭芳野作歌一首　大倭は氏名にかくは大巫の[illegible]

山高見白木綿花爾落多藝津夏身之河門雖見不飽香聞

やまたかみしらゆふばなにおちたぎつなつみのかはとみれどあかぬかも

[illegible]

兵部川原歌一首　川原は姓氏、一本川の[illegible]

大瀧乎過而夏箕爾傍為而浄河瀬見河明沙

おちたぎつ大瀧をすぎてなつみよりそひてきよきかはせをみるかはあきらけさ

[illegible]

詠上総珠名娘子一首并短歌　後紀養老二年五月割上総国之平群安房朝夷長狭四郡置安房国云々、末は和名抄上総国周淮郡季、[illegible]

み安房は[illegible]娘子の下歌の字脱[illegible]

水長鳥　安房爾縁有　梓弓末乃　珠名者　胸

[illegible]

別之廣　吾妹腰細之　須輕娘子之　其姿之

[illegible]

端正爾。如花。咲而立者。玉桙乃。道行人者。
いつくけさるちるのごくちるみくたてれば。たまげこのみちゆくひとは。
已行。道者不去而。不召爾。門至奴。指並。
おのゐゆくみちはゆのむぐくよばるくふかぐれいくるめさーなみの。
隣之君者。預。已妻離而。不乞爾。鎰たた倍
となりのきみはあるかぐおのづまかれてこはなくふかぎさを
奉。人乃皆如是迷有者。容艶。縁而曽妹者。
まるをひとのこなかくまぐくれば。うちるしよりてぞいもは。
多波禮豆有家留
たをれるうけ。

走もる。樺弓。他国、むるるのこ。紀の度さとよき相とも。そ。ふ。ーー。ふ。ーー
贏須加面、伝文。贏。痩也とそ。まく。雄略紀人名ヨ螺贏。此云須我屢。和名

抄云蠮螉。悦前二音。和名佐曽里。似蜂而細腰者也。名螺贏。果裸二音。ーーーーーーーーー
ーーーーーーーー

かなぐふ、ひとのきるそでにあらぬ、ゆふ、たすきらばでいでくぞあしたるら

かなぐはかのくぎ、ゆふ、くぎ、ゆふ、ゆふ、ゆふ

[illegible]世ぶりて、とうりんあるのけ[illegible]ものを。

浦島子傳云、妾在世結夫婦之儀、而我成天仙、蓬莱宮中、工作地仙、遊蓬江浪上、乃至得玉匣、約成、分手、翁去、島子乗舟眠目、帰去、忽至故郷、蓬江浦、[illegible]墨吉ハ与謝郡[illegible]

[illegible]通[illegible]延[illegible]箱の橋通[illegible]翁ハ[illegible]

大[illegible]、得乎良布ハ手陽多布の[illegible]

[illegible]、水江ハ氏[illegible]墨吉[illegible]和名抄鱆加豆乎、鯛太比[illegible]

[illegible]ハ、紀の[illegible]海東ハ古事記塞海坂而返入[illegible]

[illegible]海坂やぶ[illegible]海東の[illegible]

[illegible]相逃[illegible]あひかたらひとあるハ[illegible]

[illegible]帰加具[illegible]人の[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]後波嬬敝の[illegible]

[illegible]加賀布[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]字[illegible]誂相呼誘也、又戯也、又弄也、謂以微言動之也、[illegible]言葉ハ事[illegible]

かきむすびのかきハ通、むすびハ契約のこと、

世間之愚人之、　吾妹兒爾告而語久、須臾者、家

よあなのの[illegible]ひとのわざ[illegible]

帰而父母爾事毛　告良比、如明日、吾者来南登、言家禮婆、

かたてちはふこ[illegible]ものらひあ[illegible]

妹之咎久、常世邊爾復變来而、如今、将相跡奈良婆、

[illegible]

此篋開勿勤常、　曽已良久爾、堅目師事乎、墨吉爾、還

[illegible]

来而、家見跡、宅毛見金手、里見跡、里毛見金手、恠常

きたアヽくゝへみれどいへとみのねてさとみれどさとみのねてあやしと
所許爾念久從家出而三歳之間爾墻毛無家滅目ハ跡
そゝそゝふるそゝくゝへゆでゝみゝせの浦ゆかきさなくゝへうせめやと
此笹乎開而　見手齒如本來家者將有登　玉篋　小
このはこをひらきてみゝばかものごといへハあゝんとたまくしげそこ
披爾白雲之　自箱出而　常世邊棚引去者　立
ゆらくゝよたちくゝのたゝよひいでゝことよべよたちなびきぬれバたち
走　叫　袖振　反側　足受利四管　頓　情
そゝアヽさけびそゝでふのこいまろびあゝぞゝつたちまちたゝこゝろ
消失奴若有之　皮毛皺奴　黑有之　髮毛白斑奴由奈
けうせぬわのアヽはゞも志わくぬくろのアヽかみも志ゝなゆな
由奈波氣左倍絶而　後遂　壽死祁流　水江之　浦

消ヲ清ニ誤

笹ヲ苔ニ誤　本来今来本ニ誤

ゆちハいきさへたえゝのちつひふのちまけるみづのえのうゝ
島子之　家地見
たまのこがいへどころみゆ
愚志れゝゝ問るハ行平源氏ゝの物語ゝ和ゝ歌ゝ浦ゝ代ゝ紀ゝ愚
とうるけきゝ問れゝ志のよゝんゝの別離ゝ歌ゝとゝて、わゝきゝこゝふゝこゝハ海若
の女ゝとゝもゝのゝひハのアヽを延ゝるゝて告ゝ、あゝとゝのめゝ、ゝ問ゝるゝいゝんゝもしゝ
くゝよゝくゝゆゝんゝいゝまゝ、復ゝ変ゝ来ゝハゝの変ゝハ偕ゝ字ゝ帰ゝ来ゝ、そゝゝゝゝゝゝハ許
美ゝ、堅ゝ、ゝるゝとゝハゝかゝるゝゝゝのゝとゝのゝて、ゝ見ゝるゝねゝてゝハゝ日ゝとゝのゝねゝて、ゝ、開ゝくゝ、
てゝぐゝのゝとゝ渭ゝゝゝべゝ、アヽくゝあゝるゝだゝん、本来ゝ来本ゝ也ゝるゝハゝ語ゝん、むゝく
ゝ一げ、釋日本紀ゝ丹後風土記ゝを引ゝく、水江浦嶋子のゝるゝと記ゝしゝる和
ゝ後時人追加歌曰、美頭能能睿能守良志麻能古我多麻久志義阿
氣受阿理世波麻多毋阿波麻志ゝあゝ、ゝれゝばゝ、ゝげゝ、ゝいゝれゝこゝ

いるハ同じ物なり、三業之間、神代紀一夜之間とひとつのかゝふとしられバこれも
みな世のかゝふとしよりもむべしこいまろひのといハゝやちしおれゝく外と云、
清ハ清のこゝの語なり、ゆち〳〵ハゆとらるゝ迄ひ〳〵歩き〳〵、英汁ハゆのく
ハたり〳〵ゆりたるゆゆしいつる物考ゝ、先ハ家の北〳〵語作べし
地のまてゝそこと見〳〵よるなれバ之ゆ訓べし〳〵初りまこと
らまれぬとあるを尾之

反歌

常世邊可住物乎劔刀己之心柄於曾也是君

さこよへふとそむべきものをつるぎたちこゝろのゝおろやこのきみ

つるぎたち柄頭、已之ゝ心のことゝ、おろやハ古事紀斯賀阿礼婆、雄畧紀志我都矩
屢麻泥作、まゝ〳〵旨我那誓麼るゝ、已ゝをもゝ〳〵ゝ心ゝいつ、おろハ
ゝ二於ゝ物の風流ゝいつるおろ物〳〵純ゝ之ゝ此君ハ浦島子ゝ

常世よりゆゝ〳〵ゝ住べきものをゝいつゝ

見河内大橋獨去娘子歌一首并短歌

級照　片足羽河之左丹塗大橋之上従　紅　赤裳
ゝなてるかゝ〳〵ちかはのさゝなみのおゝはしのへゆくれなゐのあゝも
数十引山藍用　摺衣　服而　直獨　伊渡為児者
ゝそびきやまあゝゝてゝれるきぬきてたゝひゝとゝいるゝゝてこハ
若草乃夫香　有良武橿實之　獨歟　將宿　問巻乃
わかくさのつまのあるらんかしのみのひとりとのぬらんとゝまくの
欲　我妹之　家乃不知
ほゝきわぎもゝがいへのゝしらなく

ゝそゝる枕頭、かたゝは頭、或人吏野形よりとり、ゝゝぬりのゝさゝ
ゝく丹ゆゝく、山藍民部或ゝゆ、古へゝゝゝゝ衣と摺ゝ山あゝゝゝ

いもとこもとるの伊八度後、わこもは波るを延つるく、菜つむるとな
つあもて、山田かる人をとこもそてこいつるる同じ妻つまハうまのめく夫こ、
このこの枕詞、まやるとゐまりきと、家の知れぬこうる

反歌

大橋之頭爾家有者心悲久獨去兒爾屋戸借申尾

おおはしの つめにいへあらば まごのこの ひとりゆくこよ やどかさまをす

天智紀うぢそこの都梅能あそびみとらひ、さいだこうま橋のつめ
いらこれハ頭つめこよあと、後とも ちこどんこきさまふく、ち橋をひと
を波る女をもて、を橋の逢よ作ひこうこハ言かこんあをこよるこ

見武藏小埼沼鴨作歌一首

前玉之小埼乃沼爾鴨曾翼霧己尾爾零置流霜乎掃等爾
有斯

ききたまの をこのいけふかもでちねきるおのごをよ ふかおるる
ちをもと ちこつをとなこ

於伊なこ、和名抄 武蔵埼玉郡 作伊 太末 ちをかく言後ちをこるハやゝねのこ
ちねぎるハ羽を抜こ、事十五如れてこつまちをこをひて和我尾よハ去れ
ふりそこ ちこうこのちねさこうこてこちをこをひこ

那賀郡曝井歌一首

国こちをこをこ紀伊那賀ハ松ちの賀ハ清こるふ賀ハ清こるふ洲べ、なこていこるる和こ
ハ那河歌こ有必清こる、小埼沼よ沒ぐ歌れバ武蔵の和ちのちこるべし

三栗乃中爾向有曝井之不絶將通彼所爾妻毛我

みつぐりの なかにむきたる ゐのしみの たえずかよはん そこにつまもが

こつぐりの枕詞、古へ井こいこるハこく海こ水こ和ちの向こ陸こちこ、
宝ちこ向有いこで、回有こんこ、後ぞきこんハ和の後めこのけここの

小とそぞ〜よろあるべし、書もごのごの八形之用

手綱濱歌一首　いづこういまぐ考えば

遠妻四高爾有世婆不知十方手綱乃濱能尋来名益

ふづまたのふあり世バ志らずとも　たづるのそまのくづねきなもし

たの八集中高くとよるこそゆづうるべしされどそ八さて八のそで、高八其の

その侵まくそこあり世バやなん、あのそ八遠まのくづるの侵ものよ

侵なバ道ハ〜るべしもすりき)りんとりつと、たづるの侵くいつみとけ

て、たづよするまゝとよそるゝ

春三月諸卿大夫等下難波時歌二首　并短歌　そ八幸の度

なるべし、ひのもちのまよ、ゐごのみゆきくよりう、并短寿の字を義せり、

月絵よりまゝ〜稿了

白雲之　龍田山之瀧上之　小鞍嶺爾　開手為流櫻

ちくくものたつるのやまのたぎの(のそぐるのやまよさきをてるさくられ

花者山高　風之不息者春雨之　繼而零者　最末

はるのハやまるとのみかぜ〜やまねバたるるさめ〜つぎてふれ〜バほつ

枝者落過去祁利下枝爾遺有花者　須臾者　落莫

えハちりすぎふけゆまづるるのこれるハまもまくくハちりな

亂　草枕　客去　君之　及還来

みだれそくるまくくたびゆくきみのかへるまくまでに

白雪の特徴、他の上ハ言ふ所なれども、とぐ〜の最ハ龍田山の中ま

なるゝんに半和よりそれバとぐ〜の山ハ麓のくりと同じ所なるべし、手為流

ハ平鳥流の語に改よ如、侵ちハ上つ枝〜いつ枝同じ、最末二字とほとよる

やう、君といるハ同じく旅行人とさそるうされど越うるべ、君ハ吾の侵ちく、

たびゆくされずかつくまでれなるべ〜

反歌

吾去者七日不過龍田彦勤此花乎風爾莫落

わがゆきは なぬかのすぎじ たつたひこ ゆめこのさくら かぜふかなもち

なぬかのすぐる日数の多くすぎぬるほどをもとめいのり、神名帳大和国立田郡立田比古立田比女神社とあり、神祇令風神祭、義解謂六廣瀬龍田二祭也云々

とあるに、風神なれば、うくよあらし

白雲乃立田山乎夕晩爾打越去者瀧上之

しらくもの たつたのやまを ゆふぐれに うちこえゆけば たきのうへの

櫻花者開有者落過祁里含有者可開絶

さくらの はなは さきにしるかも ちりすぎにけり ふくめるは さきつぎぬべし

許智期智乃花之盛爾雖不見左右君之三行者

こちごちの はなのさかりに みねども さうきみ の みゆきは

今西應有

いまにあるべし

こちごちは彼此の花時花の盛にいとゞし、彩やゞく紅幸まさるべくれば

どもうくは盛なるもあらんといふことこの、宣長云、左の字は為字なるべく

まべし、試る稽古、まこと和歌ちうとも君ずきとしるべしといふ

考べし

反歌

暇有者奥津柴比渡向峯之櫻花毛折末思物緒

いとまあらば おきつしばひわた むかをの さくらも をらまもの を

難波へ下るに、いとまなれば、かくよとり、あづさゆみは熱田の枕のことく

とのいを、宣長云、此句の意不明、或いは、浪のよるを、波のよるとて、

水をもとるなるべし、そのゝ中のよりまくきこゆれば、ちかの浦の

難波經宿明日還来之時歌一首并短歌

島山乎　射往廻流　河副乃　丘邊道従　昨日已曽
吾越来牡鹿一夜耳宿有之柄二岑上之　櫻花者

瀧之瀬従落墮而流　君之將見其日左右庭　山
下之風莫吹登　打越而　名二負有杜鵑風祭為奈

射行相乃坂上之蹈本鵑開乎為流櫻花乎令見兒毛欲得

反歌

射ハ爰ニ行ニ相ノ坂ノ花ノ下ニ行ハ乃ハ坂ハ坂合ノ坂ノ下ノ上ハ

乎為流ハ乎鳥流ノ誤

いりあひのそらはるかにあくがれて、安芸流ハ安島流カ傳ヘ〜

檢税使大伴卿登筑波山時歌一首并短歌　筑ハ[illegible]

て年貢をとらんとて檢校をゝみつゝひゝ大伴ハ安麻乃てなりんの

妻神いでゝいづれもあれ、のをハ大伴の[illegible]ハあらじ卯ゝ[illegible]

しかなり

衣手常陸國　二首　筑波乃山寺欲見　君

きりでのこしちのくふのをゝなみつゝはのやまをとみまくかなきみ

来座登　熱爾　汗可伎奈氣　木根取　嘯鳴

きまぜうとあつけきなのあせかきなげきこのねとりそむき

登　岑上乎　君爾令見者　男神毛　許賜　女神毛

のぼりをのゝへをきみにみせれバをのかみもゆるしたまひめかも

千羽日給而　時登無　雲居雨零　筑波嶺乎清照

氣ノ下伎ヲ脱

ちはひをまして、どきとなくゝそもあるあつるつくねをさやとてゝて

言借石　國之真保良乎委曲爾示賜者　歡登

りぶのをゝしくくのまりらとつゝらのてをたまへばうれしみゝ

紐之緒解而　家如解而曽　遊打靡　春見麻之

ひものをゝときて いへのごとくけてぞあそぶうちなびく はるをみむ

従者夏草之茂者雖在　今日之樂者

ゆハなつくさの しげくハあれどけふのゝのさ

元ものはなハ二ハ巻ハ巻ニ此山を朋神の巻き山の麻立のゝゝ山とよ

て、巻ニ二つ並べればゝ大伴ゝ[illegible]ハ大伴ゝの[illegible]

國の名或ハ分標るものよりるなしん、者とハ大伴ゝ[illegible]氣の下伎

のをゝと脱せるうそむきハ字[illegible]嘯中曽年久さうき山を[illegible]

をの郡ゝ[illegible]神名帳常陸國筑波郡筑波山神社二座、[illegible]女

神さぶと言きこと男の神といふゆゑ〜ゆゑ〜しかは格式使の山を見ることゆゑ〜
のつゑ、ちはひはさきたちひとしさるひとしいふ同じく幸を下しあつく
時〜ふるこそとよそ、高山かたよる面伯と、人のしも時〜いづのもしこもく
をもつまびらかなる神のえせし発ゐ言借石は陽なる者四いづ
わぎもといふを言借とかゝる人をもちは石は木の偽るくいづのしきるんと
いふり、国のまもる限よいつを、細のとゝをとゝをとゝはるもゆめうちま居る
めく、衣の紐解く遊ぶさもく、まるんまゆく、まるんよるはへ、

反歌

今日雨何如将反筑波嶺昔人之将来其日毛

けふのひよどのおよぐん、つくはねよ、むかしのひとのきたるんそのひも

昔の人は来ることを思ふ

詠霍公鳥一首并短歌

鷃之　生卵乃中爾　霍公鳥　獨所生而　己父爾
うぐひすのかひこのなかに　ほとゝぎす　ひとりうまれて　おのがちゝに
似而者不鳴　己母爾　似而者不鳴　宇能花乃　開有野邊後
ゆてはなかず　おのがはゝに　ゆてはなかず　うのはなの　さきたるのべゆ
飛翻　来鳴令響　橘之　花卑　居令散　終日
とびかけり　きなきとよもす　たちばなの　はなをたちて　ひねもす
鍾喧聞吉　幣者将為　遐莫去　吾屋戸之　花橘爾
なくけどきてよし　まひはせんとて　とをくなゆきそ　わがやどの　はなのたちばなに
住　度　鳥
すみわたれとり

[illegible]

反歌

搖霧之雨零夜乎霍公鳥鳴而去成何怜其鳥

かきくらし あめのふるよを ほとゝぎす なきてゆくなり あやにかなしも

登筑波山歌一首并短歌

草枕 客之 憂乎 名草漏 事毛有武跡 筑波嶺爾

くもまゝ たびのうれひを なぐさもる ことも有んと つくねみ

登而 見者 尾花落 師付之田井爾 鴈泣毛 寒来喧奴

のぼりてみれば をばなちる さづくのさと あるかりがねも さむくきなきぬ

新治乃 鳥羽能淡海毛 秋風爾 白浪 立奴 筑波嶺乃

よひぢゝの をばのあさみも あきかぜに さらなみたちぬ つくねの

吉久乎見者 長氣爾 念積来之 憂者息沼

よけくとを みれば ながきけに おもひつみこし うれはやみぬ

さづくの田居 稔皮の ふるとよを 栗(ノヂ)村とぞ 田居はみるべき

新治の郡 筑波の郡 栗村と 田居はみるべき

蕃のめも 久後 さくれば ちるもとひて 吉久は 咲くと延 ちるまで

栗 さく さかりもとぎ いつて同じく 見るに 絶ることなし

[illegible]

反歌

筑波嶺乃 須蘇廻乃田井爾 秋田苅 妹許将遣 黄葉手折奈

[illegible]

登筑波嶺為嬥歌會日作歌一首并短歌　嬥歌八廣韻曰嬥女

往来見韓詩云嬥歌蠻人歌也[illegible]

[illegible]

頃歌場[illegible]

鷲住　筑波乃山之嶺羽服津乃其津乃上爾率而

わがつまにしてこよとこのやまをうしたくかみのたぐ[illegible]

未通女壮士之往集加賀布嬥歌爾他妻爾吾毛交并

をとめをとこのゆきつどひかがひにしてあれもまぐらん

吾妻爾他毛言問此山乎　牛掃神之　役来

わがつまにしてこととはこのやまをうしはくかみのたぐ[illegible]

不禁行事叙　今日耳者目串毛勿見事毛　答莫

[illegible]

嬥歌者東俗語曰賀我比

[illegible]

[illegible]

上の俗語の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

反歌

[illegible]

眼具[illegible]

男神爾雲立登斯具禮零沽通友吾将反哉

なのみまくもくもりのぼりたづれふりぬれとるるもしわれかへらめや

もの神といふく多山之反ハ俗字まく還之

右件歌者高橋連蟲麻呂歌集中出

詠鳴鹿歌一首并短歌

三諸之神邊山爾立向三垣乃山爾秋芽子之

みもろのかみなびやまにたちむかふみかきのやまにあきはぎの

妻巻六跡朝月夜明巻鶯視足日木乃山響令動

つまとまをとあさづくよあけまくをみあしひきのやまびこどよめ

喚立鳴毛

よびたてなくも

みもろハみむろまたは雷岳之神邊ハ海邊を海備とも俗とハなり、

三垣山用不之反ハ垣ハ垣の妻とつゝる所なり、まをんハ古事記

やしまぢふ都麻ゝ岐迦佐豆ゝ紀貫之何之、紀月巻ハ高月之、とよまをハ

とよまをの約なり、定家卿六跡二字ハ庶の二字の俗なるなり、つまとくちの

のゝよもくゝいろ

反歌

明日之夕不相有八方足日木之山彦令動呼立哭毛

あすのよひあはずあらめやあしひきのやまびこよびたてなくも

よひゝ巻のまくゝ巻ゝ巻ゝもあらの板ハあしきとかく麻の略

ゝゝゝゝいろ、ゝ作ゝあらのよひゝゝ

右件歌或云柿本朝臣人麻呂作　人まろの字ハ人こゝろ人ハ人の

佐ゝ多ゝ

沙彌女王歌一首　此女王考ハ伝紀ハ伝味摩呂の氏ハかくもあらら

宇ヲ牢二誤

雨ヲ雨二誤

倉橋之山乎高歟夜牢雨出来月之片待難

くもりのやまをたのみのよこすなるつきのかくまちがくきこ

くもりゐハ大和国名ハ下名くもりゐ国ぐ名名くぐきハ名ある人、岩三

同人宿称大浦初月寄くもり、歌句光をまつて載る、初月くもりハ

くもりあくやこのかくれぬをいとをしくくもりぐ

右一首閑人宿禰大浦歌中既見但末一句相換亦作歌

両主不敢正指因以累載

七夕歌一首 弁短歌

久堅乃天漢霧 上瀬霧 珠橋渡之 下湍霧

ひさかくのあまのかくはかみつせをたまなはわたしさとつせを

船浮居 雨零而 風不吹登毛 風吹而 雨

ふねをうけすゑ あめふりてかぜふかのとも かぜふきて あめ

不落等物裳不今濕 不息 来益常 玉橋渡須

ふらもとも そぬらもとも やまずきこあせと たまはしわたす

むかのむかほあいのこ風ふきて風吹うもとも こくの句ハ名くぐ宣

也云或人説、二つの不の字ハ者の誤なくかせハ名くとも せきて、ああハ

ふるとも なんといふ、そ名ぐ、事ものくこんある織女の方より橋を

わたす

反歌

天漢霧立渡且今日且今日吾待君之船出為等霜

あまのこのハきわたちわたる今日と今日のまつきみがふなでせらも

嘉の字ハ名くぬ名ると知べ、嘉字ハ名くるまで句、悪ハ事ものとくて

右件歌或云中衛大将藤原北卿宅作也 小マハ房前マ

相聞

振田向宿禰退筑紫國時歌一首　姓氏録布留宿禰人也

吾妹兒者久志呂爾有奈武左手乃五呂奥手爾纏而去麻師乎

わぎもこはくしろにあらなむひだりでのわがおくのてにまきていなまし

くしろは字後釧太万良又はくしろ久自利　臂上名釧といふ、和名抄鈴久之呂と訓を載せるは誤なり、奥の手は按ずるに古事記迦具土神の左御手の手纏を投棄あるなれる神の名は奥疎神、次は奥津那藝佐毗古神、次は奥津甲斐弁羅神、右の三神の手纏を投棄あるなれる神の名は邊疎神といふ、されば奥の手とは只左手をいふなり、のみならず、この歌の意は左手を大切にすることを知らんとなり

誤ヲ級誤下同

ヒノ此誤

板氣大首任筑紫時娶豐前國娘子紐兒作歌三首

此考べし

豐國乃加波流波吾宅紐兒爾伊都我里座者革流波吾家

とよくにのかはるはわがやどにひもこにいつがりをれば かはるはわぎへ

和名抄豐前田河郡香春、この和は但兄の乳左ちちとなるべし、つぎのいは

爰語、つぎるはつるぐることなり、但しりつるあるべくよるべし、巻十八に

ざぶるそのまよひものとの後都我利安比五とあるとこれをかくつなぐなり

れは結ぶ家は吾家の結ぶはもとりとなり

石上振乃早田乃穂爾波不出心中爾戀流比日

いそのかみふるのわさだのほにはいでずこころのうちにこふるこのごろ

わさだは稲なり、ほはあらはれなり、ずとは、稲の穂にあらはれぬ如く、人の心の中にあらはれぬ意なり、此今此日の日、之度あるよりなり　改

如是耳志戀思渡者靈刻命毛吾波惜雲奈師
かくのみしこりてれば[illegible]

このくにこしりの二つの山辺

大神大夫任長門守時集三輪河邊宴歌二首

大物主大神の流る大田根子の裔之崇神紀に出、考一三輪朝臣高市麻呂之祖なるべし

三諸乃神能於婆勢流泊瀬河水尾之不斷者吾忘禮米也

みもろのかみのおぢせる泊せがわ水尾のたえずばわれもすれめや

もつせ川の流れ宜しく三輪山の下へ流るゝことなれば、おハせるハおへるを延ふ、三輪山ハ山別神なくまもるせバ神の常るといふ、水脈の絶ざるんほどハ忘るまじきよし、祝詞に若雷大神氏なとハ[illegible]みもろの神をかくべきん

獻ヲ虞ニ誤活字ニ依テ改下同

於久禮居而吾波也將戀春霞多奈姚久山平君之越去者

おくれゐてわれハやこひん春がすみたちびくやまをきみがこえいなバ

そハ大神大夫の餞もるくのうた

右二首古集中出　古の下歌の字を仮せり

大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首

於久禮居而吾者哉將戀稻見野乃秋芽子見都津去奈武

子故爾

おくれゐてわれハやこひんいなみのゝあきはぎみつゝいなんこゆゑに

男をもていさまずとうらぶれ、るゆゑにかるゝものとく

手の枝をしるやおどつうれし、るゆゑにかるゝものとく

獻弓削皇子歌一首

神南備神依板爾為杉乃念毋不過戀之茂爾

かみちびの かみよりとりつぐ もろもろの おのしたぎぬ ことのはの
よいたぎぬ いろんをく もきぬ ぬそしてやるるつぐきく 宮もろ杉と
弁よりぬ ぬもろ いつるハ琴の板ろく杉の板をたきて弁と清板と
るるあり今も伊勢の宮礼ハけるるく琴頭ハ神の伊勢の伊ハ
ゑ ゆりて 琴後 集ふ ふ ふ の弁よりぬ ひくまきのくれり うろ ふ 琴ろ
ふ ふ ふ ふ ふ 神切紀ハ琴頭尾ハ千僧高僧を置て清めて神供ませるるぬ思べ

獻舎人皇子歌二首

垂乳根乃母之命乃言雨有者年緒長憑過武也

たらちねのはゝのみことのことあれば とこしなへにたのみすぎんや

女のことあるべし 言あれば此女の母ハ未ハとゆるせる況ときこゆ

まと教ふんとこいふことき

泊瀬河夕渡来而我妹兒何家門近春二家里

はつせがゆ よわたりきて わがきて このいへのかまぢ おもかげにきよけ
かなぢ ハよ いへ ごゝ 別門のるく 春ハ著ゝ春の供ちるべし 夕のハ時ら
けきと 宮ふ なれるまハ うるゝ ゝ ゝ よう 妹ゝ たの子別 宮ふ なれる
ふ ゝ 此舎人 宮ふ なれ ゝ ゝ いるる ゝ ゝ なれる ゝ ゝ 恋 ゝ ゝ ゝ
て ゝ ゝ いう ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ま ゝ

右三首柿本朝臣人麻呂之歌集出

石河大夫遷任上京時播磨娘子贈歌二首

絶等寸笑山之峯上乃櫻花將開春部者君乎將思

たゆらきの やまのをの ゝ さくらぶ ゝ きみをたぬ ゝ ん

ゝ ゝ ゝ ハ ゝ 伊勢ハ播磨ハ 播磨ハ 伊勢ハ ゝ ゝ ゝ ゝ

君無者奈何身將裝餝匣有黄楊之小梳毛將取跡毛不念

きみなくばなぞみよそひくしげけるつげのをぐしもとらんとそもつぐ

もゝよ自伯之東首如飛蓬豈無膏沐誰適為容といふる中国

藤井連遷任上京時娘子贈歌一首　藤井連廣成なるべし、後

紀養老四年九月従七位白猪史氏賜葛井連姓〻〻

従明日者吾波孤悲牟奈名欲山石踏平之君我越去者

あすよりわれはこひむなのやまいしふみたいらしきみがこえいなば

なにわの人和名抄豊後直入郡直入郷あり、そこのゆう

藤井連和歌一首

命乎志麻勢久可願名欲山石踐平之復乎毛来武

いのちをしませひさかのやまいしふみたいらしまたもこむ

麻勢久可願は必誤字なるべし、勢は狭の誤なるべし、下は伎の字と為し可は毋の

誤なるべし、麻狭伎久毋願とすべきなるべし、末句復は後の誤なるべしのち

酒八滴ノ誤

奈ノ下ノ美ヲ脱

まさしくこんこんなり

鹿島郡炎野橋別大伴卿歌一首并短歌　和名抄常陸鹿

島郡軽野郷あり、契沖云上は検税使大伴卿登筑波山時の歌なり

又志のれば當国検税子をくくて信国海上の津とくくて行くる時の

別の歌

牡牛乃三宅之酒爾指向鹿島之崎爾狭丹塗之

こゝしくのみやけのかくまはしむかしまのさきにさにぬれ

小船儲玉纏之小梶繁貫夕塩之満乃登等美爾

をぶねをまけたまきのをかぢしげぬきゆしほのみちのとみに

三船子呼阿騰毋比立而喚立而三船出者濱毛勢爾

みふねこをあともひたてよびたてみふねいでなばはまもせに

後奈居而反側恋香裳将居足垂之泣耳八将哭

おくれるみのてこいまろびてこしのもとこうんあぶとーねのもなのん

海上之　其津於指而　君之已藝歸者

うなのみのそのつふさーてきみのてぎいるば

そしらーの枕何、牝ハ牡の偽と、和名抄下総国印幡郡ニ海上郡ニ三宅あり、廉ハ安ゆさーかんるハ不情歌と、酒ハ酒の偽と、そまあつのふ舟

玉藻の焼既ニ玉、くぐみハ沙の満俗くるをらべーしぐまあの約言の、

本國ニくとたくへらつと、あをしハ青二作ニ安騰毛比陽と、

ちちつ、誘ちと、涙ちせよこ、ハ別を遠人とあまる涙ト猿きゆ並

居るさまと、奈の下美のちを脱せつ、足の下垂ハ摩の偽の、こいまろ

びのこいハこもーと向ぐくふーまろびらつと、海上ハ和名抄下総海上郡ニ、

其津の下指、沿本毎元廣本乎とそでよき

反歌

海津路乃名木名六時毛渡七六加九多都波二船出可為

八

うみつぢのかぎるむときーわくるんかくたつかまのふちでちべーや

うみつぢハ別海路ニ海上ニ海ニ海ニ海

呂ハ追ノ誤子ハ方ノ誤カ

松反四臂而有八羽三栗中上不来麻呂等言八子
まつのべをさしひきてあれやはみつゝあのをとこをとこまつとはなくも
孝千七家持放逸有感見威悦哥ヨ麻追我弊里之比余底安礼可毋さやま
だのをぢごをなりあてをとこあてをとこくんとようをとこ三栗の八枝河之さく咲之
ゆを解ゝ〳〵羽織をそれ〳〵中上八家とんなのをとこをとこ別べし月のまし
るまでまあくれば結八うつゝ後ゝふくこゝあれをとこ結〳〵
やらん始の八しりてをこの松八佐字く呂八追の俤ゑ八方の俤ゑんといひ
物まあれやりゝりゝ付八やを八迫俤ゑれば志ひうをあ〳〵ゑとりてをとこ茅を
いよ〳〵ゝ孝千七のあと今世考るを、こゝもやをとりてべし、さ八羽八母
るゝの俤なゝんこの打考べし

右二首柿本朝臣人麻呂之歌集中出

贈入唐使歌

海若之何神乎齊祈者歟往方毛来方毛舶之早兼
わたつみのいづれのかみをいのらばかゆくさもくさもふねのはやけむ
此まろ多治比真人廣成遣唐使の付のうた此ハ同じ度のうたなるべし、
ゆくさくさハ行さまあるさまなり、齊ハ齋の俤なるべし

右一首渡海年紀未詳一本此九字ナシ

神龜五年戊辰秋八月歌一首并短歌　月の下作の字を抜せり、
越の国の守ま位ゝ行人まある時よみゝ賜れるうた

人跡成事者難乎　和久良婆爾成　吾身者死毛生毛
ひとゝなることハかたきをわくらばなれるわゝみハしをもいきも
君之隨意常　念乍　有之間爾　虚蟬乃代人有者
きみのまゝにまゝとおもひつゝありしあいだにうつせみのよのひとなれば
大王之　御命恐美　天離　夷治爾登　朝鳥之

おほきみのみことかしこみ・あまぐものる・ひるとをあわび・あさとをの
朝立為管・羣鳥之・　群立行者・　留居而・　吾者将戀奈・
おもたゝしつゝむらとりの・むらたちゆけば・とまりをねて・われはこひんな・
不見久有者
みまくひさかたゝば

わたつばらはたまきはるふ、又幸ゆきとり宿之、幸五和久良姿ふしゝはあ
るとゝ、死もまた君のまゝ〳〵こゝに君は別れ去とゝして、生死
をも君る但とゝ〳〵いつく、生を六きみ・いきてはゝ〳〵むとしてゝとよ
ろかゝよのくもれば大きのゝ八世よりゝゝを人、天皇の命をかしこまぬ
人ゝなれば・ゝらつく、れをゝゝをと八越路の任まて行をゝ、和
たゝ八ゝらと延るゝ村をるの枕、そおゝゝるとゝんゝゝて久ゝゝ来
ちゝ我ハ立ん

反歌

三越道之・雪零山乎・将越日者・留有吾乎・懸而小竹葉背
みこしぢのゆきふるやまをこえんひはとまれるわれをかけて・ささのは

越前越中越後あれバ三越路といつの、又ハ三ハ出のことかるべし、そハ八月
のあるれバ〳〵降といつるハあゝゝで、越後ハもゝ〳〵雪降さ国なれバかね
ていつの〳〵かけ〳〵ゝゝよかけ〳〵ゝゝ、ささのはせハ竹のべゝ

天平元年巳巳冬十二月歌一首并短歌　月の下仙の字を抜ちう、

此ハ班田使ゝ出ゝる人のなかゝん、後紀天平元年十一月任京及畿内班田
司ゝゝとゝ

虚蟬乃・世人有者・　大王之・　御命恐彌・　礒城島能・
うつせみのよのひとなれバおほきみのみことかしこみ・しきしまの・
日本國乃・　石上・振里爾・　紐不解・　丸寐乎為者・

やまとのくにのいそのかみ　ふるのさとに　ひもとのぢ　まろねとをれば
吾衣有服者奈禮奴　毎見戀者雖益色二山上復有山者

わがきてるころもなれぬみるごとに　ふるしいまされどいろかはりぬる
一可知美冬夜之明毛不得呼五十毋不宿二吾齒曽戀流

ひとりとぬべみ　ものおもへ　ものおもへとぬるとねざめされぬる
妹之直香仁

いもがたくのふ
初四句よる　ひとりまの　ねぬ　いそのかみ　八和名抄大和山邊郡石上伊曽乃加美
五布留と石上と同郡　反歌は振山ゆたるよ　反歌は振山ゆたるよ
ゆく　近くれば　京をとるとびみやこ　山上復有山　立字出の立ちくるで
古乗府山上更有山　又作山上有山不得歸　これ　とかりつるかざるも
一八借字　人　宝　明毛不得呼　この句　冬の夜之　あれば

明八　あ　ぶ　ぶ　の　長手　いそで　成人の　ぶ　ぶ
明毛不得呼鶏　直香八　岩戸　開　ひとり　の　れ
ひとり　直香　ふ　ひとり　ふ　ひとり　ふ　ひとり

右件五首笠朝臣金村之歌中出

天平五年癸酉遣唐使舶發難波入海之時親母贈子歌一首并短歌　後紀天平四年八月以後四位上多治比真人廣成為遣唐大使従五位下中臣朝臣名代為副使判官四人録事四人云々同五年三月節刀を授四月遣唐四船難波津を発つ有此人々のうちの母の子のなるべし

秋芽子乎妻問鹿許曽一子二子持有跡五十戸鹿兒自物
あきはぎをつまとふしかこそひとこふたこもちたりといへかごとめ
吾獨子之草枕客二師
わがひとりのくさまくらたびにしゆけばたのしまをこそふねさたれ
齋戸爾木綿取四手而忌日管吾思吾子真好去有欲得
いはひべにゆふとりしでていはひつつわがおもふあこまさきくあれこそ

齋ヲ斎ニ誤

万解九　四十一

奴者多本奴去古本　元暦本奴を好去とあり、あるべし此八字なし

麻八を一つ二つうむあくいのり行をいそひ隈もを、去でハ為ることなり、此末句よみぶ〻、宣を好去の去の字ハ餞の字なるべよ〻ハ〻ハ〻ハ

白玉之人乃其名矣中〻二、　辭緒不延、　不遇日之、
〻〻〻〻まのひのそのなとなるのをたくまで、あるひの、
数多過者、戀日之、　累行者、　思遣、　田時乎白土、
まわくもぐれがこるひのかさなるゆけばはるひやるたぐきとたつふ、
肝向、　心摧而、　珠手次、　不應時無、　口不息、
きてむのふこころくぐけくたまぐきかけぬときれくこちやまぐ、
吾戀兒乎、　玉釧、　手爾取持而、　真十鏡、直目爾不視者、
わがこるこをたまくろてにとりもちてまそかがみたぐめるみねば、
下檜山、下逝水乃、　上丹不出、吾念情、　安虚歟毛
たるこひやまたるゆくみづのうへにいでずわがこころやもきそらかも

白妙の〻〻、事立て居る恋男子名古日、寄る白玉の、来る古日、〻〻〻〻よみて、
〻〻〻〻を思て白妙の〻〻〻〻とて、辭緒不延、古刑〻〻のとのべ〻〻あり、

来神〻〻〻のとのべ〻〻ハ、はるかなるをつねくゆるがごとく、
〻れとひとしるハ門さへ〻〻のづるがゆへ、人のこゝろをかくこゝのとのべ〻〻ハ名を
そわく〻〻〻ひ那ハ〻〻ゑ〻不延ハ〻〻〻〻

[illegible]

安[illegible]

反歌

垣保成人之横辭、鰲香裳、不遭日數多、月乃經良武

[illegible]

立易、月重而、雖不遇、核不所忘面影思天

[illegible]

右三首田邊福麻呂之歌集出

挽歌

宇治若郎子宮所歌一首　應神天皇の太子にまして位を大鷦鷯の兄道雅郎皇子に譲り、妻帝を今木あるものの宮のほとりに葬る　[illegible]

妹等許、今木乃嶺、茂立、嬬待木者、古人見祁牟

いもらがり、いまきのみねに、しげりたる、つままつのきは、ふるびとみけむ

いもらがり、枕向、今木嶺は、大和高市郡にあり、舒明紀に今来雄器紀に新漢[illegible]

漢[illegible]

よもべし、わが妻待といひつゝ、古人の、[illegible]

紀伊國作歌四首

黄葉之、過去子等、携、遊礒麻、見者悲裳

もみぢばの、すぎにしこらと、たづさはり、あそびしいそま、みれば悲しも

一二の句集中死るもの多くいでて
塩氣立荒磯丹者雖在往水之過去妹之方見等曾来
たちばなの あかりてふハあれどゆくみづの たまぎるものがくるみとぞこし
たちばハ潮の氣くさき二味氣のみ のこれる国とて、豊一二年間わ
ゝ
丹よハあねどもみちぞのこゝろ一ものが形を法名未詳とりて詠ること
古家丹妹等吾見黒玉之久漏牛方乎見佐府下
いすくはいたもとゆのみーぬぎくまの くろうがことられバさぶしも
奏げこ家ハへのこゝろ用ひこゝろ
玉津島磯之裏末之真名仁文爾保比去名妹觸險
たまづまいそのうゝまのまごみも あらひてゆるみいもがふれかん
真名の下古と義、此の下氏と義せしくまるでハまさごくみよりるゝ妹
ゞ名ゝ家ふれ あり てゆのんとうてん

右五首柿本朝臣人麻呂之歌集出

過足柄坂見死人作歌一首　和名抄相模足柄郡足柄、坂と板ハ通ず

小垣内之麻矣引干　妹名根之作服異六　白細乃

おかきつの あさをひきほし いもなねがつくるきせくん たちわかへの

紐緒毛不解一重結　帶矣三重結若侍伎爾仕奉而

ひもをもとうでひとへゆひ おびをみへゆひ さるつかへまつりて

今谷裳國爾退而　父妣毛妻矣毛將見跡　思乍

いまぐふも くにまうりて ちちもつまをもみむと おもひつゝ

往祁牟君者鳥鳴　東國能　恐耶　神之三坂爾

ゆきけんきみハとりなく あづまのくに かしこきやかみの みさかに

和靈乃　服寒等丹　鳥玉乃　髪者亂而　郡問跡

ふぎこゝまの とりたまの かみハみだれて こほりとゝ

國矣毛不告家問跡家矣毛不云益荒夫乃去能進雨

くもりそのうぐいすよどいへをそいそびまちをるものゆきのちそこ

此間　偃有

こふこやせる

をはつのとハ爰ハ[illegible]はの内とゝ、熊宅ゝゝハ[illegible]ゝ、[illegible]庵ゝ立

庵と苅干ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ねせなのうぐいつる能ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

間の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

坂ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

霊ハ細布二字の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

人の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

過葦屋處女墓時作歌一首弁短歌

知努男子太郎吐四人ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

作家矣。　天雲乃退部乃限。此道矣。去人毎。
つくれるつのを。あまぐもの。そきへのかぎりつこのみちをゆくひごとゝみ
行因。射立嘆日。　惑人者。啼雨毛哭矣。語嗣。
ゆきつゝもていくちはげのひわびぐとはねもなきつゝかくつつぎ。
偲繼来。　處女等賀奥城所。　吾弁。　見者悲裳。
きぬびつぎこゝをもめらごおくつきどをろわれさへみればかなしも。
古　思者
いにしへおもへば
まゝゝをとこハ初男男宇をは男をゝ、蒐名日ハ此下ゝ岩ナ九ゝ同ド
ゝを宇奈比壮士とゝ、蒐原壮士とゝ、又ハ蒐會處女ともゝゝれハ蒐原をゝ
ゝを蒐をよみゝ、同ゝく地名乃ゝ原と夫とよめハ夫し此ゝ通へるなりゝん。
奥城ハ墓をゝ、飛字ゝ乃ゝふハ皆ゝ久つきとゝゝ、わゝをゝられゝゝをてゝられゝゝ、

退紅の紅ハそこひゝゝゝ同ゝ、此ゝ出、前の條ゝ、惑一本或ゝ飛ゝゝゝゝ條
ゝゝく感のゝゝゝゝん、岩十惑者のあゝゝゝゝゝゝ、そゝ感の條ゝて、
いづれとわびゝゝ洲ゝゝゝゝゝれき、宮ゝゝゝ惑人ハ惑ハ佐宇ゝゝく里人ゝ、岩
十八ゝ惑ゝゝゝ度世流（サドハセル）とゝゝゝ、ゝびくとゝゝゝべきゝゝゝゝゝ、十の岩ゝゝ
ゝ同ゝとゝゝ、形考べゝ、ゝゝ女ゝの等ハゝゝハ泡緒のごゝ
反歌
古乃小竹田丁子乃妻問石菟會處女乃奥城叙此
いにしへのゝたゝゝのつまゝひゝうゝゝとあのおくつきぞこれ
小竹田ハゝゝゝゝ洲ゝゝ、此二人の男のゝゝいづれの氏ゝのあゝん
語繼可良仁文幾許懸布矣直目爾見兼古丁子
かゝゝつゝぐめゝゝゝもゝたゝこひきゝをたゝぐめゝみゝゝんゝゝゝゝゝんゝをとゝ
後ゝゝるゝゝゝゝもゝこひゝきゝゝたゝゝゝゝゝゝ

哀弟死去作時一首并短歌

父母賀成乃任爾　箸向　弟乃命者　朝露乃銷易杵
ちゝはゝごなのまふく　はむの　おとのみことは　あさつゆのけやすき
壽　神之共　荒競不得而　葦原乃水穂之國爾　家
いのちかみのむ　あらそひわて　あしはらのみづほのくに　いへ
無哉　又還不来遠津國　黄泉乃界丹　蔓都多乃　各各
なしやまた　かへらぬとをつくに　よみのさかひに　つたのね　おのゝ
向向天雲乃　別石往者　闇夜成　思迷匍匐　所射
むきむき　あまくもの　わかれいしゆけば　やみよなす　おもひまどひ　いゆ
十六乃意矣痛　葦垣之思亂而　春鳥能　啼耳
しゝの　こゝろをいたみ　あしがきの　おもひみだれて　はるとりの　ねのみ

鳴乍味澤相霄晝不云　蜻蛉火之心所燎管悲悽別焉
なきつゝ　あぢさゐ　そこ　よるひるといはず　かぎろひの　こゝろ　もえつゝ　なげくわれを
成一のまふく　はゝ　ぜ　まふく　ちゝ　むの　ぬ　ぬ　はゝ　ぜ　死と神
のなり　たまふ　まれば　ぬ　ぬ　ぬ

一云意盡而

蘆檜木笑荒山中爾送置而還良布見者情苦裳

あしびきのあらやまなかにおくりおきてかへらふみれば心くるしも

葬送のくのあるを見てよめる

右七首田邊福麻呂之歌集出

詠勝鹿真間娘子歌一首 并 短歌 此くまのゝ中三年十七ヶ月

鶏鳴 吾妻乃國爾 古昔爾 有家留事登 至今 不絶

とつとのなかに あづまのくにに いにしへに ありけることと いまにをたえず

言来 勝牡鹿乃 真間乃手兒奈我 麻衣爾 青衿著

いひくるかつしかのまのてごなが あさぎぬに あをえつけ

直佐麻乎 裳者織服而 髮谷母 掻者不梳 履乎谷

ひさまを もは おりきて かみだにも かきは なでず くつをだに

著ヲ看 二齋ヲ 齊二俱

時ハ許 俱

不著雖行 錦綾之 中丹裏有 齋兒毛妹爾將及哉

ふ ちゃくすれど にしきあやの なかに つめる いもこも いもに しかめや

望月之 滿有面輪二 如花 咲而 立有者 夏蟲乃

もちづきの たれる おもわに はなの ごと さきて たてれば なつむしの

入火之如 水門入爾 舟己具如久 歸香具禮 人乃言時

いりひの ごと みなとに いりに ふねこぐ ごとく かへれ ひとの いふとき

幾時毛不生物乎 何為跡歟 身乎田名知而 浪音乃

いくだにも いけるものを なにすと か みを たなしって なみの おと の

驟 湊之奥津城爾妹之臥勢流 遠代爾 有家類事乎

さわぐ みなとの おくつきに いもの こやせる とこよに ありける こと を

昨日霜將見我其登毛所念可聞

きのふ しも みけむ ごとも おもほゆる かも

和名抄腰帯部に衿音襟和名比岐於比小帯也釋名云衿禁也禁不得開散也

又の説世女の業より編こそ垂て戴しものなれ衣と

ゆひくれてとちくたるなえ、ひさとはきはゆ旅なく直(ヒタ)衣、

看一衣著とまるまる、ゆ自の枕詞面輪は面輪こそのこと、友ものこと

よりの男の桃くけさくまくまくまくまくと以婦者具礼は上の演為の去

奇くに、流波也嬢敦のもちよいつるめくと無恵ひるの用語、發時い

くくきさといつる語例なり、時は許の侵なるまるし、年許こそよう

姫よりくとい、何ものとこの為くなる、たちてとて生を三身れたまをぶ

とよめとそこよりひつこそやるは所るまくくこは死てるふとれは、き

のふまの業は佐まくゆ婦へ、遠きなのるかるとと、さ巻をとるく、

そ姫とと人ならく人のあくゆ巻くみ井とと

反歌

者は黄ノ誤預は顔ノ誤

勝壯鹿之真間之井見者立平之水挹家牟手兒名之所念

かつしかのまのあをみれたちなくみづくまくそんてでなり却ゆ

見菟原處女墓歌一首并短歌

葦屋之菟名負處女之八年兒之片生乃時從小放爾

あしのやのうちなびをとめがやとせごのかたちのをくきゆをばなれ

髮多久麻庭爾並居家爾毛不所見虛木綿乃牢而座在者

かみたくまでにおちくびをるいへにもみえずこもりてとれば

見而師香跡悒憤時之垣廬成　人之詰時　智奴壯士

みてしかとおもむとときのかきれかなりてひとのとふときちぬとと

宇奈比壯士乃廬八燎須酒師競　相結婚　為家類

うなひをとこの廬はやたきすしきそひてあひよばひしける

時者燒太刀乃手預押稱利　白檀弓　歟取負而

ときよやきだちのたゞみわ〜ねア〜ちらまゆみゆきとゝ〜ゆひて
入水火爾毛将入跡立向　競時爾　吾妹子之母爾
みづよいわひもいらんとたちむかひきそへるときよわがもらゝ
語久倭文手纏賤吾之故　文夫之　荒争見者
かゝらくちづくまきいやしきわがゆゑまもらるものあらそふれば
雖生　應合有哉　宍串呂　黄泉爾将待跡隠沼乃下
いけわともあづくあれやちくらよみよまくんとこもりぬのさき
延置而打嘆　妹之去者血沼壮士　其夜夢見
ばへおきてうちなげきいもがいねればちかとこそのよい夢をみ
取次寸追去祁禮婆後有　菟原壮士　伊仰天
とあづきおひゆきくれば追くれるうなひをとこいあぎて
叫　拔良姐踞他　牙喫建怒而如己男爾負而者不有跡

宍ヲ完ニ誤

文ヲ父ニ誤文ヲ大ニ誤

蔽ヲ蔽ニ誤

標ヲ摽ニ誤

さくびおらびあるきしきがみたけびくかくろとまげてはあづと
懸佩之　小劔取佩　冬蔭蔵頭都良尋去祁禮婆親族共
おきさきのをぶちくわをさくろとあゆきくれば
射帰集　永代爾標将為跡　遐代爾語将繼常
いよあづどひてなのさよみたるふせんとほきよんかくりつぐんし
處女墓中爾　造置有　壮士墓　此方彼方二　造置有
をとめづのなのふつくわおきをとこづのこもるくかもつくりおかる
故縁聞而　雖不知　新嘗之如毛　哭泣鶴鴨
ゆゑよきいきて　たらねどゆひものごとねなきつるかも
八年丁巳ノ条　八年十三歳の八とせとゆ髪のくしよみくしうなばるく髪と
ゆくそをとうちあるくそをばまのさハ夜ふくくうちるまのうを髪
くくとでハ髪あげしてわがあるとの八年居ゝ八年と居べ居る人まも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

云鳥多誓眉（ヲタケビ）ととゝ、ところとハ改まる、已れよ〻〻き男しりまく、白壮士
五よまあけ〻ことゝまく、鈴そ〻さのゆだち、かきふ羽まく佩刀〻、こゝろづ〻まそ
も出、樹間〻やうぐ〻八姫まも〻白壮士の歎抜〻、永代どこ〻へゝもしよぐ〻、
ゝゝき伏ゝと思ひ浮ゝるゝれば〻、彩雲八偽富まく〻彩喪〻

反歌

葦屋之、宇奈比處女之、奥槨乎、往来跡見者、哭耳之所泣

あしのやの、うなひをとめの、おくつきを、ゆきくゝみれば、ねのみしなくゆ

ゆきくゝ八往来ゝてのゝ

墓上之、木枝靡有、如聞、陳努壯士爾之依、倍家良信毋

つかのへの、このえなびけり、きくごとに、よるべくゝも

知勞男の墓のまへなびきしるわ、年十九此壮士女の墓をとゝある毛ものヨ、

ちあひみせゝゝ芙蓉と指たのゝ〻〻ちひてなびけりとよゝ、土支方ヨ、

きゝめゝらの反のゝゝ芙蓉をぐ〻生支ゝゝなびきけ〻ゝゝよひれば、

ゝ芙蓉のまゝ

右五首高橋連蟲麻呂之歌集中出

萬葉集巻第九

内閣文庫

万解九代　五十二

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan